

とさとふる 資料紹介

=69=

史料と地名からみた 地区の歴史24

伊深(二)

江戸時代、伊深村は一部の尾張藩領を除き旗本佐藤氏が村のほとんどを支配しました。佐藤家の初代継成つぐなりは関ヶ原の戦いの後、家康につかえ日光山造営奉行なども勤めた人物でした。

天和元年(一六八一)、伊深村の百姓十数人が、江戸へ出て領主の佐藤氏に年貢の減免を直訴するという出来事が起きました。いったんは負担が軽減されますが、その後、百姓は幕府の評定所に訴えました。しかし、その判決は関係した三十四人の百姓を処罰するという厳しいも

ので、ほとんどは打ち首にされたり、牢獄で死んだりしました。これがいわゆる「天和の伊深義民てんな いぶかぎ」です。この伊深義民をまつる碑が正眼寺前に立っています。



伊深義民をまつる碑

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成九年二月分)

○バンドコ 一点

(桜井峯男さん／加茂野町)

○セイタなど 二点

(酒向功さん／三和町)

○養蚕用具 二点

(渡辺数男さん／川合町)

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内／内四〇八)まで情報をお寄せください。